テーマ：桜川市観光中長期計画の策定について

●日時　平成26年8月7日(木)　19：00-21：00

●場所　桜川市役所真壁庁舎3190会議室

●議事メモ

**・前回を振り返って思ったこと、反省点、どんなところを重点的に進めていったらいいのか（5年後・10年後を見据えて進めるように：前回のおさらい)**

現状の把握をきちんとやることが一番、前回は自分たちがやっていることしか言っていなかったので、他の人がやっていることを吸収できてない。外から人を呼び込むには、それは現状分析をきちんとすることから始めた方がいい。

5年後、10年後を考えるには、もう1世代下の人を呼ばないと、考えてもプレイヤーがいない状態になる→若い人や女性を入れる。

観光に関心がある人を掘り起こすのは難しい。今はすでに何かをやっている人が集まっているので、そこからの発展を目指す。

お互いを知っている場で求められるのは平場の会議。毎月テーマを決めて集まり、お互い何を考えているのかだれでも参加して発表できる場を観光協会で作り、そこから新しい会員を増やしていく方法もある。

自分たちが抱えている問題を他の地区から見て評価する場があるといい。他の地区の人が解決してくれるようなケースもある。

小学生を対象に桜の勉強会をしているサクラサク里プロジェクト。

だが、それが継続して興味の対象になるのは難しい。

10人いる中で1人のやる気をある人を発掘するのは大事な作業。

**会議で若い人の声を聴くのは難しいので、一緒に何かをしてコミュニケーションをとる。**後々進学や就職で外に出て行くにしても、住んでる間にコミュニケーションをとっていくのが大事。外に出て行ったけどわざわざ帰省して祭りに中心になって参加している人もいる。

5年後10年後の話をするべきだとは思う。平場で根気よくやっていくのがいい。農業をやっている若い人に入ってきてほしい。林業が若い人に注目されている。町並みや桜を入れたビジョンを考えて、それに合わせたイベントをやっていく。

岩瀬町時代の21世紀事業。公募したら、団体の代表者が入ってくる。自分の会にどうやって金を持っていくかばかり考えて全体で何かしようという気持ちがない。それを思い出した前回の会議。

お金の取り合いではなく、未来を見つめる会議にしなくてはいけない。

強力なリーダーが方向性を決めてくれることもあるけど、観光協会ではそれで困ることもある。

→これは予算が0になってもやっていけるように考える会議である。

市長が会長をやると選挙に左右される。ちゃんとした計画があれば会長がだれになってもやっていける。人のお金を頼って始めた事業は長続きしないので、思いのある人が集まって計画を作るべきだ。

・今後どうやって会議を進めていくか

テーマを決めて集まる、とにかくラフな感じで意見を言えるようにする

現在のようなスタイルではいつまでも決まらない。今は走り出してすらいない。

既存の事業は置いといて、どういうところに行きつきたいか、盛り上げたいかというビジョンをもって、テーマを決めて集まっていきたい。

知り合いに農業関係、志のある人がいれば誘う。事務局から観光果樹園などの若い人を誘ってみる。（いれば）

集まりに来させるのはきつい。桜川市観光中長期計画策定会議という名前が難しいので題目を決めた方が集まりやすい。

若くなくても革新的な意見を持っている人はいる。

自分でテーマなどを決めるのが苦手な人は多い。決めてくれればそれにあわせてちゃんと動いてくれる人はたくさんいると思う。

この会議はテーマを決めるだけで、実際の話し合いはワークショップで行う。（始めてきた人でも、もし興味がありそうなら会員になってもらう）結果は広報さくらがわなどで行う。

いままで・よそとは切り口を変えなければいけない。各種団体の長がやるなんてとんでもない。知恵を使えばいろいろなことができる。

なにについてのワークショップをやるか。ワークショップの話題を作る。

全てのイベント・観光スポットが連携して人を呼べるような観光をしたい。

「桜川市のいいところを言い合う会」→主観の意見を言いやすい。観光につながる可能性がある。

5年後は意外と身近。自分の意見を持っている人を集めて仲間にする。

・募集のかけ方

観光協会として集まるか/ワークショップが先か

観光協会主催のワークショップ→観光協会自体のPRになるかも

**回覧、facebook、ホームページ**

とっつきやすいテーマ、キャッチコピー「あなたの知っている桜川市のいいところ」

わいわい話し合う、いい意見も悪い意見も自主的に意見を言いたいので参加するというスタイルがいい、桜川市がなくなっても桜川の観光が存続できるように

よそに住んでいても行きたい場所、岩瀬の人に真壁のことを聞く・真壁の人に岩瀬のことを聞く、とりあえず未来を語ろう

意識の差を活かす。町の閉鎖的な空間を取り除く。祭りに関しては、とにかくどんな人でも参加できるようにしたい。

住民のこの地域を守ろうという意識を高める。人が来ればものは動く。

ワークショップと委員会の繰り返し

**場所：商工会岩瀬事務所　時間：平日夜　時期：9月中旬くらい**

**申込：メール、fax　事前に商工観光課に連絡**